

# 中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

池田工業高等学校

## また、山においてよ——映画「岳」——割引券あります

白銀の穂高連峰を舞台に、山岳救助ボランティアの活躍を描いた映画「岳」が公開される。お国自慢ではないが、この映画は、松本市認定のご当地映画「松本CINEMA」認定第1号映画となっている。もちろん山は「穂高」、松本以外の県内のあちこちの場所もロケ地となっているが、私にとって生まれたときから見慣れている松本市内のいくつかの場所が登場する。原作はビッグコミックオリジナル連載、石塚真一の手になる「岳」である。山の美しさと厳しさを小栗旬と長澤まさみが好演していると公開前から評判である。松本市内「シネマライツ8」の割引券を、中信地区の山岳部のある学校には顧問宛にお送りしました。山岳部の生徒はもちろん、それ以外の生徒にも積極的にお配りいただき、生徒たちが山を知るきっかけとしてもらえればと思う。

山岳部に生徒を呼び込むチャンスです。大いにPRしてください。もし足りないようなら追加でお送りすることも可能です。また、岡谷スカラ座の割引券も融通できると思っています。必要な方はご連絡下さい。

## GWの岳沢——今年の雪の多さは異常だ

連休中は、5月3日から5日、2泊3日の日程で岳沢に入った。信高山岳会の例会山行だが、メンバーは今夏の遠征隊員6名（松田、久根、山内、三戸呂、佐藤、大西）である。遠征前の組織的な雪上合宿はこれが最後となった。場合によれば7連休と喧伝された今年のGWだったが、前半は山岳遭難事故が多発した。そんな中、十分知り尽くした山であるが故に、細心の注意を払って入山した。

3日、上高地に到着して出発準備をしていると、一足先に到着したGDMのメンバーから声を掛けられる。先方は11名という大部隊。見慣れた顔が約3分の2。8時15分、こちらも入念に準備をしてから追いかけた。10時50分岳沢のテントサイトに到着。天気予報では、安定するとのことだったが、昼頃から乗鞍に雲がかかりはじめ、一気にあたりを覆い、雪模様の天気となった。そんな中で、ロープワークの確認と雪上訓練を行ない、明日の偵察を兼ね、上部の様子を偵察する。天狗沢にも奥明神沢にも最近出たと思われる雪崩のデブリがあった。いずれの沢にも上部にはまだ落ちていない雪があり、決して油断できない状態である。昨年と比較的雪が多かったが、今年の雪の多さは特筆ものである。雪の状態は例年より2～3週間は遅れている感じといえはいいだろうか。



うか。連休前半各地で雪崩が起こったのも納得できる。現に岳沢小屋で聞いて見ると、奥明神沢の雪崩も27日に発生したものであるということであった。

3日夜のミーティングで、沢に入るのが気持ち悪いという意見もあったので、訓練優先、登ることは二の次として、状況によれば適当なところで切り上げてピストンしようということで、4日は昨年

南稜 トリコニー上部の痩せ尾根に行く  
左後方は明神岳

も登ってルートがよくわかっている南稜に取り付くことにした。

明けて4日、5時にテントサイトを出る。およそ1時間で南稜の下部に到着。夜半には雪も止んでいたが、好天とも言えない天気である。昨年と同じルートを辿って尾根の右側のルンゼ状の斜面を登って南稜に取り付いた。暫くは、雪とブッシュの混じった尾根を登っていく。今回は積極的にロープを使おうということで、トリコニーの第1峰を2パーティがコンテで登る。まず大西がトップ松田セカンドで通過、その後三戸呂トップ、佐藤ミittel、山内ラストで越える。久根さんは、NBS長野放送から預かったカメラの撮影役となってもらった。一時的ではあったが、結構雪が強くなり、気温も下がってきた。トリコニーを越えたところで当初計画の通り、戻ろうかとも思ったが、雪も積



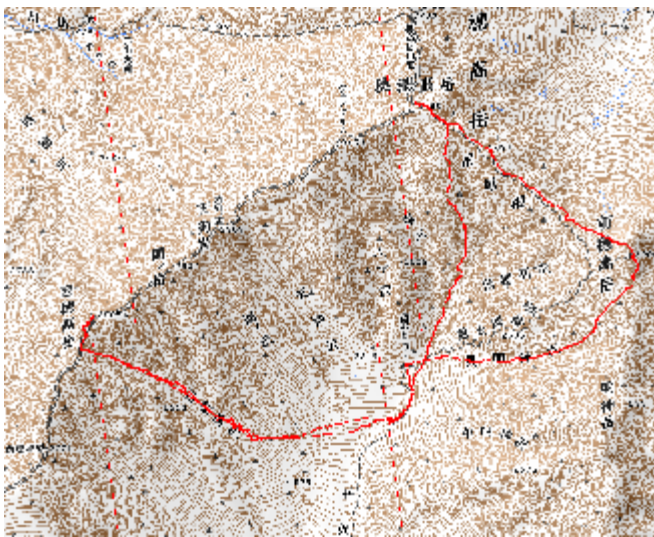
西穂山頂にて、奥穂をバックに  
佐藤 大西 三戸呂

もるほどではないまま止んだ。加えて気温が低く雪が締まった状態のままであったので、登り切って奥明神沢を回っても大丈夫だろうと判断し、そのまま頂上を目指した。頂上に出るころには天候も回復し、3190mからの眺望も楽しめた。その後は、吊り尾根を慎重に辿り、前穂経路で奥明神沢を下った。

5日は、三戸呂、佐藤の若手とともに西穂沢から西穂に登った。今夏目指す「ヤズックアグル」峰の登攀は尾根ではあるが、写真で見る限り、この状態をもう少し傾斜をきつくし、長くし、さらに高所という条件を付加したものといえるだろう。

そういう意味で、僕自身は本番をシミュレーションし、頭の中でイメージ化しながら登った。5時にテン場を出発し、途中の二股は左股にルートを取り、7時45分にはコルに到着。その後稜線を15分で西穂山頂着。2時間半の速攻登山。3日間のうちでは最も天候が安定し、雪も締まってアイゼンが気持ちよく決まる快適な登攀となった。

連休後半は比較的天候は安定していたが、前半の事故が多発した影響もあってか、岳沢も例年に比べテン



ト数も少なく、静かであった。

## 編集子のひとごと

来週は山岳総合センターの高校登山研修会。センターによれば5校、26名の参加とのこと。参加校に固定化の傾向が見られるものの、参加者はここ数年増加している。生徒のみならず顧問にとっても貴重な研修の機会、大切にしたいものだと思う。(大西 記)